

第76歩

「夜を輝かせ、まちをもっと魅力的に」

「高松は昼は素晴らしいが、夜を楽しむ場所が少ない」。少し前までは観光関係者や旅行者の皆さまから、このような声を耳にすることがありました。瀬戸内海の美しい景観や歴史、文化、食など、多くの魅力を持つ本市ですが、それらを夜の時間帯までつなげられていないことは、大きな課題の一つでした。

そこで本市では昨年、「高松市中心市街地夜間景観ガイドライン」を策定しました。その目的は、単に街を明るく照らすことではありません。建物や樹木、水辺などを上品な光で演出し、高松らしい落ち着きと品格を感じられる夜の景観を創り出すことです。光の色や明るさ、デザインに一定の考え方を示すことで、官民が一体となった統一感のある夜景づくりを進め、「歩いて楽しい夜のまち」を目指しています。

夜景は新たな観光資源であると同時に、市民の皆さまにとっても日常を豊かにする財産です。仕事帰りに散策したくなる街、宿泊客がもう一泊したくなる街、映える写真を撮りたくなる街。そのような魅力を積み重ねることが、高松のブランド力向上にもつながると考えています。

私が高松の将来像として重視しているのが、「Tゾーン」と呼ぶ都市空間の形成です。「東西」には、五色台からサンポート、そして屋島へと連なる瀬戸内海沿いのシーフロントがあります。世界に誇る多島美を望むこの軸は、高松ならではの魅力です。夕景から夜景へと移り変わる海辺の景観を生かし、光によってその魅力をさらに高めていければと考えています。

一方、「南北」にはサンポートから高松城跡、中央商店街、中央公園、栗林公園と続く都市の背骨があります。歴史、商業、文化、自然、という多彩な魅力を一本の軸として結び、それぞれが個性ある光で彩られることで、高松全体の回遊性は大きく高まるでしょう。そして、このTゾーンを見渡せる特別な場所が屋島です。古くから多くの人々を魅了してきた屋島からの夜景は、高松の宝です。

昼だけでなく夜も選ばれる都市へ。市民、事業者、行政が力を合わせ、高松ならではの美しい夜の景観を育てることで、魅力ある世界都市・高松を実現してまいります。

